

2. 文学部

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

文学部では、卒業時点で以下の3点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士(文学)」の学位を授与する。

1) 知識・技能

言語・文化などの諸事象について、幅広い知識とともに、専門的な知識・技能を学んで理解を深め、それを応用することができる。

2) 思考力・判断力・表現力等

客観的に思考し判断する能力を身に付け、言語および多様なメディアを用いて、自らの思考や見解を表現し、他者とコミュニケーションを図ることができる。

3) 主体性、多様性、協働性

社会や文化の様々な事象に関心をもち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、社会貢献に向けて改善・解決を図ることができる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

文学部の教育課程は、文学部のディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能、態度等の資質・能力を身に付けた人材を育成するため、大学が定めるカリキュラム・ポリシーに基づき、「基礎教育科目」「共通教育科目」および学部にも所属する2学科の専門教育科目によってカリキュラムを編成する。

(1) 教育課程の編成、教育内容

建学の精神や大学教育に必要な基礎知識を学ぶ科目を「基礎教育科目」に設置し、現代社会で生きるのに必要な知識・技能や幅広い教養を学ぶ科目を「共通教育科目」に設置する。

また各学科の専門教育科目において、進路について考える科目を「学部共通科目」(文学部・社会学部共通)に、主体性と協働する能力を修得する科目を「学科共通科目」(日本学科・国際コミュニケーション学科共通)にする。

学科において知識を学び資質を高める科目のうち、基礎や中核となるものを「学科基幹科目」に、発展的かつ専門的なものを「学科専門」に設置する。そして、専門分野の知見を総合し、課題発見・解決を図る総括的な科目として3・4年次にゼミナールの科目を設置する。

(2) 教育方法

- 1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ICTの活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ループリックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

文学部は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

- 1) 人文科学の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。
〔求める要素：知識・技能〕
- 2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できること。
〔求める要素：思考力・判断力、表現力等〕
- 3) 言語・文化に対する様々な事柄に関心をもち、課題を発見し解決する意欲を有すること。
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、他者と協働できること。
〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕